



# 三事研広報

No.3

H25.11.22 発行



三重県公立小中学校事務研究会

発行者 釜須 雅子  
編集責任者 福西 真美

日増しに冷え込みを感じるようになりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。11月7日～8日に開催いたしました、東海地区公立小中学校事務研究大会伊賀大会は、たくさんの方のみなさまにご参加いただき無事終えることができました。ありがとうございました。さて今回は、8月に行われました全国公立小中学校事務研究大会の様子をご報告いたします。

## 全国事務研（石川大会）

「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」という大会テーマのもと、8月7日～8月9日までの3日間、石川県金沢市において第45回全国公立小中学校事務研究大会が行われました。

三事研では、全国大会に参加いただいた会員から報告書をいただいています。毎年、全国各地の実践と交流に学び、参加者それぞれが成果を得てきています。三事研修講座などの中で、交流の場が設定できませんでしたので、いただいた報告書から全国大会の環流報告としてとりまとめました。



石川県立音楽堂

### 1日目

#### 〈開会式〉

10時30分より第45回全国小中学校事務研究大会が石川県立音楽堂コンサートホールにて始まりました。まずは今井大会実行委員長より開会宣言があり、その後横山会長の挨拶、来賓の方々の祝辞が続きました。中でも、谷本石川県知事が、石川県の夏休みが他県と同じ長さになった経緯を説明された後、子どもの疑問に根拠をもって回答できるように、常に問題意識を持ち、課題解決のために動いていくことが重要とお話は、大変身近な話題を基に話していただきわかりやすいものでした。また、全国連合小学校長会の小滝事務局長の、予算を執行する事務職員の経営感覚が学校には大切であること、一人職種である校長との信頼関係を大切にしてほしいというお話もありました。

#### 〈文部科学省行政説明〉

その後、文部科学省初等中等教育局 主任視察官 西辻正副様より第二期教育振興基本計画の説明がありました。説明内容は受付時に配布された黄色い冊子を中心としたものでした。まず、これからの教育の全体像を語る上での4つのビジョン、8つのミッション、30のアクションの説明がありました。また、今後の社会の方向性として「自立」「創造」「協働」の3つのキーワードが掲げられ、この3つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築していくとの話がありました。

今後の小学校教育で重視される4つのビジョンの1番目に「社会を生き抜く力の養成」が挙げられており、近年よく耳にする「生きる力」や「ICTの活用」「全国学力・学習状況調査」と繋がりがわかり、文部科学省と学校現場は、意識はしないものの繋がっているのだという事が実感できました。学習指導要領の趣旨は生きる力の育成にあり、子どもたちに21世紀型スキルを身につけさせるため、教職員にも実践力が求められる事、物事の本質を理解し、俯瞰する能力が必要であるという説明がありました。

話の最後に、夢を持つことの大切さについて西辻氏の考えを話されました。現代の子どもたちの夢は現実的なものが多いので、もっと大きな夢を持てばいい、そしてその夢に向かって努力すればいいということ、子どもは大人が思っているより大人の考えを敏感に感じ取っているのではないかというお話でした。

今回の説明では省略していることも多くあるので職場に戻ってから原典に当たることは重要であること、情報共有もとても大切であるので、本日配布した資料は回覧して欲しいというお話があり、文部科学省の行政説明を終えられました。

## 《全体研究会》

基調報告では第7次中期研究計画で行ってきた4年間の年次別課題と研究の成果が報告されました。学校事務のグランドデザインについては教育改革の流れに沿ったグランドデザインが策定されるという説明がありました。

シンポジストの方からは各自の県の現状報告がありました。新潟市からは、事務職員に必要なのは自分の思っていることに共感してもらって共感力であり、そのような力をつけた事務職員の育成をしているという事が話されました。行政職員としてのアイデンティティを持ち、リサーチ力、成功へのシナリオ作成力、合意形成力、資源調達力などを磨いていかないといけないとのことでした。また、栃木県では給与制度として事務長が位置づけられているという報告がありました。

このように各県の状況を知ること、自分の県が全国でどのような位置にいるかを知ることが大切だと感じました。

(津 谷口)

## 2日目

### 《本部研究分科会》 学校経営ビジョン実現のための戦略と学校事務 －学校マネジメントを推進する事務職員の在り方－



まず、第7次研究中期計画のまとめとして、これまでの経過をふまえて、学校経営戦略を担い学校のマネジメントを推進する事務職員の役割について考え、あわせて、そのためのキャリア形成の在り方、地区学校事務室(共同実施組織)の展開、それらを実現するための研修の体系化、学校事務の制度について追及することがねらいということが説明されました。

午前中の提案では、「地域とともにある学校づくりと学校経営の戦略」「学校経営ビジョンの策定と学校経営計画」「戦略的な学校経営と学校事務」「戦略的な学校マネジメントを推進する事務職員」「地域学校経営における地区学校事務室」について助言者の方の各提案へのコメントをいただきながら提案されました。マネジメントと聞くと初めは難しくどうしたらよいかかわからないイメージでしたが提案を聞くことで経験に応じたマネジメントがありそれを行っていけばよいのでということがわかりました。

午後からは、ホワイトボードミーティング方式を用いて「これからの学校の在り方と学校経営ビジョン実現のための学校経営戦略」「学校経営戦略を実行する学校事務の機能と役割」「事務職員のキャリア形成と能力開発、学校事務にかかわる制度・仕組みや地区学校事務室の在り方」をテーマに討議が行われました。(員弁 宮原)

### 《第1分科会》 イノベーション! 質の高い教育の実現を目指して －学校経営ビジョン実現に迫るとちぎの基本戦略－



「とちぎ学校事務ビジョン」とその実行策の「栃木チャレンジプラン」についての提案がされました。さまざまな組織による研修の体系化を確立し、とちぎの「研修の体系化」体系図を作成しています。経験年数によるステージ・そのステージごとに発揮すべき能力・必要な研修を設定し、県教委等のそれぞれの組織がどんな研修を行うのかが明示されている体系図になっています。

その中には、採用前研修も組み込まれています。三重県においても、採用前研修や、それぞれの経験年数に応じた力を育てる研修が必要だと感じました。「研修の体系化」体系図は、自分の置かれた位置で、どのような研修を受け、どのような力をつけていったらよいか明確にされていてわかりやすいと感じました。

そして、この提案を聞いて各自、「Actionシート」①【事務職員の資質力向上について、貴支部(県事務研)・貴市町事務研、共同実施での取り組み】の記入をしました。

午後のシンポジウムでは、「これからの学校の地域連携のあり方」「新しい事務職員の役割」について討議が進められました。地域が納得する学校づくりのために事務職員に企画経営力が求められ、定型業務から創造的業務へ変わっていく必要があること等が話し合われ、今後私たちが考えていかなければならないことなのだと感じました。

その後、「Actionシート」②【あなたは、この分科会に参加してどのようなActionを起こそうと思いましたか。】を記入して提出しました。

さらに、この分科会参加者は宿題として「Actionシート」③【②に基づいてどのような実践をしましたか。また、成果やつまずきの要因をお書きください。】を記入し、1月末までに提出することになっています。(松阪 鈴木)

## 《第2分科会》 仲間とともに学校事務ビジョンの共有と実現を目指して —協働開発中！とやまのくすりで学校パワーアップ—



富山県では事務職員がめざす最終目標(とやま学校事務ビジョン)として「子どもの豊かな育ちに貢献できる学校事務職員になろう！強みを活かして仲間と協働し、進化し続ける事務職員を目指して」を掲げており、そのビジョンの基本理念として「個々の強みを活かして、弱みは仲間でカバーし合い、進化していくこと」を掲げています。これからは自分自身、学校事務職員としてビジョンを持ち、そのビジョンを達成するには何が必要かなどを考えながら仕事をしていきたいと感じました。また、ワールド・カフェ方式の討論では、テーブルを囲み全国の学校事務職員の方々と意見交換をしました。仕事内容についてももちろんそうですが、教員と教員、または教員と管理職の情報のパイプ役になるとか、先生たちにとって居心地の良い事務室経営をするなど、理想とする学校事務職員像について意見が交わされたのが印象に残りました。また意見交換の中で、県により採用方法から実務内容まで違いがあり、とても興味深い討論でした。

まだまだ経験年数の少ない私ですが、目先の業務を確実にこなしてだけでなく、どういう学校事務職員になりたいか、学校全体の中で学校事務職員として何ができるかを考えながら日常業務に励んでいきたいと感じました。

(松阪 中野)



## 《第3分科会》 「気づき」からはじめる、イノベーション！ —つながり行動しよう 子どもたちの笑顔のために—

福井県の学校事務グランドデザインの基本理念は「つながり行動する」である。子どもたちが安心して学べる学校づくり、保護者や地域に開かれた信頼ある学校づくりのために、積極的に学校経営に参画していきたいと考えられています。また、めざす学校事務・事務職員のための実行策を模索し、具体的な課題やとりくみを示しています。学校経営ビジョンを校長とともに描き、それを実現するためのスタッフの一員として、子どもたちの豊かな育ちにつながっているのだという意識を持って行動する、その行動を意味づけすることでミッションも明確になります。学校運営や学校経営に携わっている、つながっている業務に気づき、一步踏み出して行動しましょう。と提案されました。学校づくりのために1歩踏み出し、日頃の実践が実行策につながっているのだという意識を持っていきたいという力強い言葉に、ビジョンに向かって、組織が一団となつてとりくんでいる姿を見ることができました。実際に意識することで、毎日の学校事務も意味のあるものになると思います。子どもたちの笑顔のために、つながり行動する事務職員をめざして、常に意識し、意味づけをして自分の役割を果たしていきたいと思いました。

また、「開かれた学校」とは、地域の特徴、伝統、歴史などを踏まえて、地域とともに成長できるような学校として地域に根ざしていくこと、そして自分が育った地域を大切に、地域を興す人材となる子どもを育成していくことを意味すると提案されました。地域力を生かした学校支援と学校力を生かした地域づくりが重要となってくるなかで、学校と地域を効果的につなげる役割が必要です。その役割を事務職員がどう果たしていくのが課題です。

助言者の方からは、“時代の背景を踏まえて、1歩踏み出す勇気が「気づき」から始めることができる新しい発想である”こと、財務については執行業務だけでなく“教育活動を考える予算管理をしていく必要がある”こと、地域との連携の中で、事務職員がどんな役割を果たせるのかを一人ひとりが一生懸命働いているなかで“気づきを大切に、しくみを作っていくことが必要である”こと、などの貴重な助言をいただきました。難しくとらえるのではなく、毎日の業務の中から、気づきをもとに自分の役割を考えていく事を学び、今後の自分のとりくみにつなげることができることを感じました。若い人たちのパワーから元気をもらうことができた分科会でした。(伊勢 山崎)



## 《第4分科会》 地域とともに学校を創造する学校事務の追及

### －「研究基本要領2011」からのアクション－

#### 提案第一部：新潟県の共同実施

共同実施の目的は、学校事務職員が組織として主体的に共同実施を推進し、参画と協働の仕組みを作りながら、学校と地域、行政と積極的に連携することで学校教育の充実、よりよい教育の推進が図られる

共同実施の効果により、事務職員が地域の学校経営改革に積極的に取り組み、事務部門の強化を図っていくことは、それぞれの学校で、より組織的に学校事務を進めていくことに繋がる

共同実施をとおして職能を身につけ、得た資質・力を学校での取組に生かし、学校経営に参画

共同実施は学校教育の充実を図るため、他職種を、教育委員会等を巻き込み、協働して組織的学事務を行っていくものである

新事研は、『研究基本要領』を策定し、研究目標を『参画と協働』による学校経営を推進する組織的な学校事務の追求とさだめ、目標達成項目と達成年度を定めた

また、県内の実践活動の推進や取組を支援するため、「学校事務の共同実施運営ハンドブック」を作成し、各支部への訪問を行うなどのサポートを行ってきた

全県的視野に立った共同実施組織の整備と、総括事務主幹が各エリアに配置されるよう取り組んできた

#### 提案第二部：県内各地で推進する組織的學校事務の進展

◆安定した事務機能の提供・・・分掌事務通知職務への関わり率 100%へ

◆学校マネジメント強化・・・事務部経営計画作成率 100%へ

◆予算（財務）委員会の設置と取組の進展

◆地域に応じたとりくみの推進

地域の実態や状況に応じた課題に対応した組織的學校事務が実践

◆コミュニティスクール・小中一環・地域学校支援室のとりくみ

『地域学校事務室』としての機能を発揮するためには組織や制度の整備が必要

#### 提案第三部：組織的學校事務の拡充

これまでの取組により、共同実施が各学校に一定水準の学校事務が行われるようになった

諸規定が整備され職位・職責が明確に

■総括事務主幹職の新設

学校事務機能の保持と充実のため、また、全県視野の総括、共同実施グループ長の資質能力の向上のため、平成25年4月 総括事務主幹という新たな職が設置

地域における事務主管の代表として渉外機能を果たし、リーダー養成に当たる

地域・エリアの代表として各共同実施グループ長をまとめ、地教委・県教委などに対して意見具申を行う役割に

■学校事務職員の「標準的職務」通知

平成14年に出された分掌通知から10年が経過する中で、学校経営のあり方は変化し、事務職員が主体的に学校経営に役割を果たせるような領域が加わった通知が出された

■全県規模の共同実施推進協議会の設置

■「新潟県学校事務共同実施要項」改正

■市町での学校事務職員制度の整備

事務長・事務主任の任命・・・学校支援地域本部のコーディネーターに

■キャリア形成と研修制度の充実・・・公的な研修制度の体系化

提案の最後に、新設された「総括事務主幹」に聞いてみよう」というコーナーが設けられました。キャリアを積み、新事研をリードし、今までの諸制度や改善を提案してこられた人材であることが伺えます。

新潟県も新旧交代の時代にむけ、「なりたい先輩」像が身近にあり、若い情熱に火を注ぐ取組だと思いました。

#### 第四部：グループ討議

「地域とともに学校を創造する学校事務と学校事務職員の役割は何か」

アイスブレイキングの後、18のグループに分かれてグループ討議

提案者とは別に18人のスタッフがグループに入りファシリテートしていく形態

自己紹介の後、各地区の状況と実践などを話し合う

分科会所感：研究発表のプロセスを通して、若い事務職員に経験値と歴史を伝え、コーディネーター、ファシリテーター、メンタリング、プロデュースの機能を学んでいくことができ、そこに、事務研の意義があると思います。

地域とともに学校を創造する・・・はまだまだ見えていないけれど、遠くない将来にその役割を担う事務職員の姿が実現されなければ、職としての存在価値に関わるかもしれない。

全国の仲間とともに実践を共有しながらその先を探索していきたいと思いました。（津 釜須）

## 〈第5分科会〉 学校経営ビジョンの実現と学校事務

### －財務から学校経営参画をめざして－



第5分科会は分科会の中で更に5つの分散会に分かれるという形式で進められました。最初の全体提案の中で、「新たな時代の学校でみんなが財務の統括者になろう！」という研究目標を掲げ、学校経営ビジョンを実現するための課題と、問題解決のため「学校の意向を反映できる財務施策の活用」「新たな時代の学校を意識した予算委員会の設置」「フルコスト把握調査と市町財務研修」「事務職員の意識を高めるためのクレドカードの作成」の4つの方法と手段が提示されました。

分散会はA分散会に参加しました。石川県は共同実施を行っていないということを知り、自分たちとは目標達成のための手腕が違うのではないかと思いましたが、財務について教職員の共通理解や関心が弱いという共通の悩みを抱えていることが分かりました。また、教育活動において年間を見通した財務を組み込んだ事業計画の立案・執行される組織体制を構築し、教育計画と学校財務の関連性を意識づける取り組みは、私たち支部と同じ方向を向いていると感じました。

分散会后、全体会で助言者の日渡教授からの「認識が変わると行動が変わる。行動が変わると自分が変わる。これが新しい学校づくりに大切なことである」「予算は目標を具現化するための最重要な経営資源であり、目標と予算を常にリンクさせ、それを地道に繰り返すことで教育そのものが変化し、子どもの豊かな育ちを支援することができる」という言葉が印象に残りました。

新たな時代の学校とは、自主性・自律性を確立し特色づくりに取り組む「これからの学校」であり、石川県は新たな時代の学校で財務の統括者を目指し、認識を変えることで新たな課題を発見し、課題解決への新たな取り組みへと広がっています。

新たな時代の学校づくりの中で、その学校経営ビジョン実現の一翼を担う事務職員であるため、これまで以上、財務に取り組んでいかなければならないと感じました。（尾鷲 川口）

## 3日目

### 〈記念講演〉 演題 「地域の伝統を未来につなげ、世界に開く・まるびい」

講師 金沢21世紀美術館 館長 秋本雅史さん

小学生を対象にした「ミュージアム・クルーズ」では、案内するボランティア(美術愛好家が多い)が上から目線で答えを言わずに、共に鑑賞し、考え、感動するプロセスを大事にするというお話がありました。(すぐに答えを求める)パワーポイント的発想や大人の豊富な経験は、時に“新しい発見”を阻害することに留意しておかなければなりません。遊びの持つ能動性の重要性に着目し、子ども一人のささやかな発見が参加者たちの共有・共感へとつながる素晴らしさを体験できることに意義があると思いました。

次に「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」では、ウクレレを通じた現場の空気感を尊重し、(実行する前に正しいか悪いかを判断するような)頭で考えることは二の次・三の次にして活動を続けている挑戦者を見守り続け、プログラムを実行していく“運営の『胆力』”について述べられていることが印象に残りました。

美術館も社会に対して「開け、開け！」と言われる時代で、学校もまた同じ状況にあります。美術館の職員も内なるルール(自制・耐力)が自らにないと、そういった広がりに対応することはできないと仰っていましたが、それが学校の職員にも当てはまるのは当然だと思います。

金沢の伝統文化・コミュニティが宇宙船のような形をした特異な美術館(及びスタッフ)は、地域につながり、地域をバックアップしている関係性を作り出している運営に学びました。(津 宮村)

## お願い

情報部では「事務の手引」の再活用に取り組んでいます。統廃合などで不要となった「事務の手引」がありましたらお知らせください。よろしくお願いします。

